

地震発生地域における台風接近に伴う農作物被害防止技術対策について

令和8年8月4日
熊本県農業技術課
農業革新支援センター

令和8年熊本地震による被害を受けている状況において、台風第13号が発生しており8月7日～8日にかけて強い勢力で沖縄・奄美に接近する予想となっています。

8月4日9時時点の気象庁の発表によると、本県への影響としては、暴風域に入る可能性は低いものの、強風の影響や地盤が緩んでいる地域の土砂災害が心配されます。

つきましては、技術対策をとりまとめましたので、ご活用いただきますようお願いいたします。

また、最新の台風情報に十分留意していただくようお願いします。

1 共通事項

< 農作業安全 >

- ① 地震があった地域では、建物や農地・農道の崩れや亀裂の発生状況を確認したうえで、人的安全を最優先しながら対策を行う。
- ② 猛暑日や酷暑日の中での作業となるので、熱中症にも注意する。
- ③ 雨漏りが想定される倉庫内の機械等にはシートで覆う等の対応を行う。

2 部門別管理

< 普通作 >

〈事前対策〉

水 稲

- ① 水漏れを防ぐため、排水口を閉じ、畦畔や用水路の修理を行う（地震による畦畔の崩れ、モグラ穴等も可能な限りふさぐ）。

〈事後対策〉

水 稲

- ① 強風通過後は、病虫害の多発が予想されるので、県の防除指針を参考に防除に努める。
 - ・白葉枯病については、台風による葉先の裂傷が生じた場合に発生リスクが高まる。発生した場合には、有効な薬剤（粉剤・液剤）がないので、感染拡大を最小限にするため、むやみにほ場に入らない。
 - ・上記以外の病虫害についても、ほ場を観察し、発生状況に応じた適切な防除に努める。

水田大豆

- ① 大雨により畦が侵食され根群が露出したほ場では、排水後に土寄せを行い、生育の回復を図る。
- ② 強風により葉焼病の発生が心配されるので、防除に努める。

< 野 菜 >

〈事前対策〉

共通事項

- ① 育苗中の苗は、ネット等で被覆し固定するなど、強風による転倒・落下防止に努める。
- ② 土壌消毒中のビニル、ほ場周辺の防草シート、マルチ等は、風で飛散しないように重しで補強を行う。

露地栽培

- ① は種または発芽直後のほ場は、寒冷紗等を被覆し保護する。
- ② 強風による株の揺れ、茎の折れを予防するため、土寄せを十分に行っておく。

施設栽培

- ① ハウス等の施設は、地震によるパイプ、杭、針金、連結部のボルト等の緩みがないか確認し、必要に応じて、補強、締め直しを行う。
- ② 天井ビニルを被覆しているハウスは、バンドの緩みがないか確認するとともに、防風ネット等を被覆し、天井ビニルを抑える。
- ③ 強風に備え、ハウスの締め込みを行う場合は、地震によるハウスの隙間がないか確認し、戸、天窓、サイド、妻面など開口部の密閉を行い、風の吹き込みを防ぐ。また、サイド巻き上げの締め込みを強める。

〈事後対策〉

共通事項

- ① 苗に被覆したネット等は強風、雨がおさまった後、すみやかに除去する。ただし、茎葉の損傷や萎れ等がみられる場合は、晴天時は寒冷紗等で遮光し、樹勢の回復を促す。
- ② 茎や葉に付着した泥土は、病害防除を兼ねて水で洗浄し、潮風を受けた場合は速やかに塩分を洗い流す。また、茎葉の損傷等により病害の発生が懸念されるため、すみやかに殺菌剤を散布する。
- ③ 倒伏したもの、根元の緩んだもの、根の露出したものは支柱を立て直し、草勢の回復を促すため土寄せを行う。

施設栽培

- ① 強風がおさまったら、防風ネット等を除去し、施設やビニルの破損および自動換気装置の動作状況を確認する。

< 果 樹 >

〈事前対策〉

共通事項

- ① 地震により、建物・農地・農道等の崩れや亀裂が発生している場合があるので、安全を確保したうえで作業を行う。
- ② 雨による法面の崩壊防止のため、地盤が緩み崩落の危険性がある場所にはブルーシート等で覆いをしておく。
- ③ 防風ネットなどの防風施設の点検を行う。
- ④ 海岸部に近いカンキツ園では、潮風害に備え、洗浄用水・動噴・燃料を確保する。

露地栽培

- ① 温州みかんのシートマルチは、飛散・破損防止のため固定を確認するとともに、破れがある場合はテープで補修する。
- ② カンキツかいよう病やモモせん孔細菌病等は、前回に散布した薬剤の効力の低下が心配される園では、殺菌剤を散布する。

施設栽培

- ① ナシ、カキ、ブドウ等の棚栽培では、側枝部分の結束状態を点検し、必要に応じて再結束する。
- ② ハウス等の施設は、固定ひも、パイプ、杭、針金などの点検をし、必要に応じて交換、補強、締め直しを行う。

〈事後対策〉

共通事項

- ① 風が強く降雨があった場合は、カンキツかいよう病、モモせん孔細菌病に対して薬剤散布する。
- ② 潮風を受けた場合は、なるべく早く真水で洗い流す（台風通過後6時間以内の散水は効果が高いが、10時間以上過ぎての散水はほとんど効果がないとされている）。

< 花 き >

<事前対策>

- ① 土壌消毒中のマルチビニルについては、風で飛散しないように重しをする等補強を行う。
- ② 天井ビニルを被覆しているハウスは、バンドの緩みがないか確認するとともに、防風ネット等を被覆し、天井ビニルを抑える。
- ③ 強風に備え、ハウスの締め込みを行う場合は、地震によるハウスの隙間がないか確認し、戸、天窓、サイド、妻面など開口部の密閉を行い、風の吹き込みを防ぐ。また、サイド巻き上げの締め込みを強める。

<事後対策>

- ① 通過後は、直ちに防風ネットや寒冷紗等を除去し、ハウスの換気を行う。
- ② 早急に施設やビニルの破損や電照施設・自動換気施設の動作状況を確認し、電照途中の品目においては、直ちに電照を再開する。
- ③ 冷房育苗中のトルコギキョウ等で停電となった場合、通風に留意するとともに、寒冷紗被覆や散水等をこまめに行い、室温の上昇を可能な限り抑える。

< 茶 >

<事前対策>

- ① 地震により防霜ファンが傾き、電線の断線等が起こっている場合は、強風による二次災害が発生しないよう可能な限り対処に努める。なお、ほ場や法面に地割れ等が発生していないか十分確認を行ってから実施する。
- ② 樹高の高い幼木は強風にあおられ茶株が回って根が傷み、その後の生育に支障をきたすので、強風被害が予想される場合は低くせん定する。
- ③ 製茶工場の窓や扉は完全に閉め、シャッターはばたつかないよう内側から補強し、煙突は飛ばないようにワイヤー等で補強する。なお地震で製茶工場の窓や壁等が破損している場合は、ブルーシート等で覆ったのち補強し、工場内に風雨が入り込まないように努める。

<事後対策>

- ① 降雨によって地盤が緩み、ほ場内に亀裂等が発生する恐れがあるため、管理作業を行う前に必ずほ場内を確認する。危険と判断された場合は、大型の管理機械等をほ場内に入れないようにする。
- ② 幼木園において株元が広くロート状に穴が開いているものは早急に土寄せを行い、株元を踏み固める。
- ③ 強風により秋芽等に傷がついた場合は、速やかに殺菌剤を散布し、病害の発生抑制に努める。

< いぐさ >

〈事前対策〉

- ① 地震により納屋が損壊している場合は、身の安全を最優先にしながら織機や保管している原草などをブルーシート等で覆って重しで固定し、可能な限り風雨で濡れないよう努める。

〈事後対策〉

- ① 一次苗（畑苗）が風雨の影響でなびいてしまった場合、早めに先刈を行い、株の通気性を確保するために切った茎は株上から払い落としておく。但し、乾燥を防ぐため、なびかなくなる程度の高さで先刈する。
- ② 台風通過後に、建物等の安全性を十分に確認した後、保管している原草を確認し、濡れたものがあれば分けて保管する。

< 畜産 >

〈事前対策〉

飼料作物

- ① トウモロコシ、ソルガム等の長大作物で刈り取り適期及びその前後に達しているものについては、できる限り収穫調製を行う。

畜舎施設

- ① 畜舎及び各種の付帯施設については、ボルトの締めつけ、窓、壁等の部分的な補強を行い風の吹き込みを防ぐ。
- ② 畜舎の開口部、堆肥舎の空の槽については、風の吹き込みがあるので、入口にロールを置いて、強風の吹き込みを防止する。

〈事後対策〉

飼料作物

- ① 風によって外からは場に飛んできた飛来物（例えば木の枝）等は、機械を破損する原因になるため、丁寧に取り除いておく。
- ② 生育ステージが進んで倒伏した飼料作物は早急に刈り取り、サイレージ調製を行う。

畜舎施設及び家畜

- ① 被害を受けた畜舎施設等については、すみやかに補修を行う。
- ② 被覆資材の破れによるサイレージ及び飼料の変敗、カビの発生に留意し、変敗した飼料の給与は避ける。
- ③ 放牧地において、再度放牧させる場合は牧柵、給水設備の点検、飛来物（例えば木の枝）等を取り除いた上で放牧を再開させる。

油流出事故の防止対策と油流出事故発生時の初動対応について

〈油流出防止対策〉

- ① 地震による燃油タンクの傾きや配管の損傷等がないか再度点検を行う。強風に備え、燃油タンクが倒れないように固定し、栓を閉める。
- ② 防油堤に溜まった雨水は抜いておく。その後、タンクから流出した油が防油堤から外へ流出しないよう、止水栓を閉めておく。

〈油流出発生時の初動対応〉

- ① 流出を発見したら直ちに、所管の消防署に連絡する。
- ② 併せて、発生要因（閉め忘れなど）を確認して、すぐに流出を止められる場合は直ちに対応する。
- ③ 排水路、河川、ほ場等に流出した場合、周辺の地下水や生活環境への影響を未然に防止するために、流出した油を早急に回収・除去する必要がある。流出した場合の事後対策は、油の種類と流出量、ほ場の状態等により対応が異なるため、関係機関の指示に従う。